



## ● 環境色彩研究会が参加者を募集

2021年度の環境色彩研究会の行事として、環境色彩の話題を話し合うWEBミーティングが開催され、参加者を募集しています。

話題提供は15分～30分、懇談会が60～90分程度で、環境色彩に関する話題を気楽に語り合う、研究発表会より気楽なミーティングで、見学会や講演会と並ぶ、WEBを利用した新しい環境色彩研究会行事として、定着させる予定の会です。

◆日時：2022年1月25日(火)

20:00～21:30 (ZOOM利用)

◆話題提供者：杉山 朗子 (環境色彩研究会)

◆話題：「改めて地域の色を考えてみませんか。地元の色をあなたご自身で探してみましよう。」

◆参加費：無料

◆申込方法：下記フォームに必要事項をご記入の上送信してください。

<https://forms.gle/saiHuXwbTZERDsuZ7>

メール申込みの場合は、

<mailto:kyoko.hagiwara@jp.sunstar.com>

宛で、メールタイトルを「第3回WEBミーティング参加」としてください。

途中入退場可、話題提供者も広く募集中です。  
(永田泰弘)

## ● LOJ 第2回研究会のご案内

◆演題「かごんまの色<sup>®</sup>」で地域を元気に！  
～色彩を活用した地域ブランディング～

◆日時：2022年1月23日(日) 14時～

15時30分(セミナー60分、質疑応答30分)

◆演者：牧野暁世氏(鹿児島大学 客員准教授) 愛知県出身。名古屋大学大学院 環境学研究科 博士後期課程 単位取得満期退学。

2016年2月から鹿児島大学産学・地域共創センター特任助教として着任。

同大学の地方創生事業に従事しながら、地域資源としての色彩を通じた地域ブランディングの研究・教育等を行う。

研究成果として、色彩学的調査及び地域住民との協働で構築した鹿児島らしさを表現する「かごんまの色」がある。

現在、同大学 客員准教授として在籍しながら、理工学研究科 博士後期課程に所属。

◆場所：オンライン開催 (Zoom)

◆参加費：無料

◆参加方法：

<https://forms.gle/UaJFVVjFNQGmiZce6>

上記からお申込みください。後日オンライン招待状が到着いたします。

◆申込締切：1月21日(金) 17時

◆LOJ事務局 ながなわ久子 (永田泰弘)

## ● 季語集の中の色名ー 4

● 晩春の季語

**催青** (さいせい)：蚕を孵化させるために蚕卵紙を暖かい所に置くと、卵の色が青く変わることを言う。

**青鰻** (あおぬた)：からしな・あさ付き・はうれん草等を青くゆで、魚肉と共に味噌で和へたもの。

**緑の週間**：四月一日から一週間。

**緑の羽根**：緑の週間に売り捌かれる羽毛の胸飾。これが国家緑化運動の基金となる。

**赤貝**：肉が血のように赤いのでこの名がある。

**青柳** (あおやぎ)：晩春の柳の葉が伸びて青々としているので。

**白躑躅** (しろつつじ)：清楚でありながら迫り来る強さ。

**白藤** (しろふじ)：浄さと優しさを具えた独特の美しさがある。

**青麦** (あおむぎ)：晩春の青々とした麦。

**麦青し** (むぎあおし)

養蚕が盛んな時代があり、戦後の荒れた国土を緑化する運動が全国的に展開されたことがうかがい知れる。旬の食べ物が季語になったのも冷蔵庫が普及していなかったためか。植物の緑色を「青」と表現するのは古来からの表現方法である。  
(永田泰弘)